

# 「令和4年度 見えにくさのある児童生徒に関わる指導者研修会 第2回」実施報告

京都府スーパーサポートセンター(SSC)視覚支援担当

8月3日(水)、SSC ラボにて上記研修会を開催いたしました。当日は、京都府南部地域で見えにくさのある児童生徒の指導に関わっておられる先生方にお集まりいただき、第一部でSSC作成の「自立活動アセスメントシート」をもとにした自立活動の進め方についての学習を、第二部で小学校の弱視学級の担任の先生による自立活動の実践発表をいただきました。また府専門家チーム委員の森上 和先生には貴重なご指導とご助言をいただき、各校の二学期以降の実践に向け、大変有意義な研修となりました。

ご協力ありがとうございました。

## 研修会の内容

## 自立活動アセスメントシート

- ・開会挨拶 (SSC 所長 村田尚美)
- ・自己紹介
- ・協議／交流Ⅰ (自立活動とアセスメントシート)
- ・休憩
- ・協議／交流Ⅱ  
実践発表 (自立活動／障害特性の理解と受容)  
報告者 (小学校弱視学級担任)
- ・指導助言 (府専門家チーム委員 森上 和先生)
- ・閉会のあいさつ (SSC 総括主事 豊岡真希)

義務教育終了時点までに身に付けておきたいスキルの内容が示され、現時点でのスキルの度合いが可視化されるので、児童生徒の見立てや目標の設定、指導内容の計画、さらには指導内容の定着具合を見るのに役立つ内容となっています。Webフォームに入力すると、上記のフォーマットに結果が反映されます。<SSC 作成>

### 御意見・御感想 ①(一部紹介)

<協議・交流Ⅰ(自立活動とアセスメントシート)>

画期的なシートの提案をありがとうございます。実態を把握した上で、長期目標を設定する、将来像を描き、短期目標として細分化することで、自活で何をねらい、どんなことに取り組みればよいのかが明らかになり、初めて弱視学級を担任する先生にも、つけるべき力が明確になったと思います。

課題がたくさんあるのがはっきりした。週2時間の自立活動の時間以外にも、組み込めるものは組み込んで、将来や2年後くらいを見据えて、少しずつ力をつけさせたいです。

視覚支援を進めるための視点がシンプルかつ的確にあらわされており、どのような支援が必要なのか、将来のために何が必要かがわかりやすかったです。

### 御意見・御感想 ②(一部紹介)

<協議・交流Ⅱ(実践報告:障害特性の理解と受容)>

自分の障害(特性)を理解し、自分のことを知ってほしいと、自らねらいをもって伝えることができるって、とてもすごいことだと思いました。

本人が理解教育をするというのは、自分への理解にもつながり、とてもいい教育だと思いました。

具体的な実践方法や事例を取り入れながら、写真を使ってお話ししてくださったので分かりやすかった。具体的なイメージをもつことができた。支援の手立てを知ることができました。

大人の立場からではなく、「子ども本人が説明に行く」というのは、とても意味があると思います。